

弥生式住居跡

【所在地】鹿兒島市郡元 2 - 4 - 27 一之宮神社境内

【種別】県指定史跡

【指定年月日】昭和 28 年 9 月 7 日



鹿兒島市郡元の一之宮神社境内にある弥生時代の竪穴住居跡である。昭和 25 (1950) 年 7 月から 8 月にかけて発掘調査が行われ、4 基の竪穴住居跡が発見された。県内で初めて発見された弥生時代の住居跡として重要である。

この住居跡は、今から約 2,000 年前の弥生時代中期のものと推定される。竪穴住居跡の一つは、直径 8.5m の大型で円形を呈し、多数の柱穴もある。

他の住居跡は一辺の長さ 4 m ほどの方形を呈するが、いずれもベッド状遺構や張り出しを有する。出土遺物としては、壺形・甕形の成川式土器のほか、一之宮式土器（本遺跡で命名）、軽石製器台、磨製石斧、石庖丁、石斧などが発見されている。

この近辺から、現在の鹿兒島大学の敷地にかけての微高台地には、弥生時代の遺跡が多く、一大集落を形成していたと考えられる。住居跡は、鹿兒島大学教育学部グラウンドや理学部の敷地内にも確認されており、鹿兒島大学構内は、一大遺跡群を形成している。